

第四回 新春天狗連名人会つ。 ◆主催 豊橋落語天狗連

獅子  
天子  
天狗が  
初も噛む、  
笑い。噛んで、

◆日時 二〇一八年二月八日「月・祝」 ◆一の席 開演十一時三十分 ◆二の席 開演十五時  
◆場所 種々の国とよはし芸術劇場 プラット・アートスペース  
◆木戸札前売 一五〇〇円 当日 一、八〇〇円 ◆木戸札のお求めは小林理容館(豊橋新本町) プラットチケットセンター窓口 ◆お問合せは小林理容館 053-225-3271



# 新春天狗連名人会?

第四回



**八五郎坊主**  
こう見えても正義感の強い彼は言う。「人ちゅうのはな、大きな失敗を犯したりしたら、ちゃんと反省の態度を示さなアカン」最近、突然坊主頭にして周りを驚かせた彼だが、頭を丸めた理由については誰も聞けない。

**あくび指南**  
年々、日本人の心とも言うべき年賀状の数の激減を憂う郵便局勤めの彼は、寄席のお客さんに力説する。「名人会のチケットをかうお金があったら、年賀状を買いましようよ!」本末転倒を絵に描いたような男である。

**王の落物話**  
落語の合間に治療も行う耳鼻科医の彼は、その豊富な財力も売りだ。「名人会でトリを取る事があったら、天狗連専用の寄席を建てますよ、ハハハ」と豪語していたが、今回自分の出番を見て顔面蒼白になっていた。



**新版三十石**  
旅行好きで知られる彼。休みの度に、あちこちへ出かけていくが、その費用がどこから出ているのかは今もって謎である。彼の名譽のために言っておくが、決して天狗連の予算をこまかしてはいるわけではない! 多分。

**太田家虚生**  
今回は師弟での出演となる。最近では師匠の芸を凌駕すると、もっぱらの噂である弟子に対し「いやいや、喜苦の芸はまだまだだよ」と言いながら皿を割りまくる師匠。弟子の成長にとって、師匠から支障になりつつある。

**成田家虚生**  
天狗連の寄席のチラシ制作は、いつも彼のデザイン事務所が担当している。余儀なく激務を強いられるスタッフたちにいつもコーヒーを煎れてあげる優しい彼。ミルク、砂糖入りなので、決して「ブラック」でない。

**一の席**  
開場 11時 開演 11時30分  
……………  
終演 14時頃



**成田家南朝**  
今回も大トリを務める彼。聞くところによると三月に、今回と同じプラットのアートスペースで独演会があるとの事。「そのためのウォーミングアップとして頑張るよ」名人会の大トリは、彼の稽古場と化しているらしい。

**望々亭みらく**  
彼女は某有名服飾店のカリスマ店員。寄席のお客さんが洋服を買いに来る事も、しばしばある。女流作家である彼女が売った服を着ると、幸せになれるという噂が、俗に言うところの「笑う門には福来る」というやつだ。

**髪家三代**  
天狗連会長が鬼籍に入られて二年が経つ。そろそろ新会長を決めようという話が、「新しい会長は、旅行回数が多いで決まってるってどう?」あ、持っている派手なアロハシャツの枚数でもないよ!」彼のその発想が、髪ってる!



**阿弥陀池**  
自ら経営する病院でも、時折寄席を催す彼。お客さんには、なかなか好評との事。客席で笑ってない人を見つけたら、「耳が遠くなってるから、明日診察に来てください」新規の患者もゲットでき、二石二鳥のようだ。

**成田家南朝**  
プロの舞台である彼は、絵がとてもうまい。芝居の書割などを描き上げる手腕は大したもの。「結婚も三回したけど、ホマは一人でのんびり暮らすのが夢なんや!」どうやら一番得意な絵は「絵に描いた餅」らしい。

**髪家三代**  
若い頃はブイブイ言わせていたが、最近は分別ある年になり、不燃ごみと可燃ごみを分けられるようになった。「でもやっぱり、一番ウケたいんだよね。スベると落ち込むから」ナイーブな彼は、老いてなお多感である。

**鶴橋滅滅渡**  
認知症落語、中高年応援落語など、テーマに応じた落語を作り演じている彼が、得意としているのは悪質商法、撃退落語。詐欺の手口を熟知していくにつれ、自分でもやってみたいという、イケない衝動に駆られているらしい。

**二の席**  
開場 14時30分 開演 15時  
……………  
終演 17時30分頃

2018年 1月8日[月・祝 成人の日] 穂の国とよはし芸術劇場プラット・アートスペース

◆木戸札=前売1,500円/当日1,800円 ◆木戸札販売所=小林理容館(豊橋新本町)/プラット チケットセンター窓口  
◆お問合せ=小林理容館 0532-53-2710 ◆主催=豊橋落語天狗連 ◆http://www.geocities.jp/tengurenjp/index.html

